

# いっしょの

# 富士山豆博士事業



平成18年度から富士山の豊かな自然と恵みを後世に継承するため富士山基金の一部を活用した「ごてんばの富士山豆博士事業」を実施しています。今年度実施した富士岡小学校、神山小学校の2校と、豆博士事業の支援団体であるNPO法人富士山の森を守るホシガラスの会の取り組みを紹介いたします。

問い合わせ／環境課 ☎(83) 16003

## 富士山豆博士Q&A

Q「ごてんばの富士山豆博士事業とは？」

A「富士山」を大きなテーマに各校の特徴や地域性を生かして身近な富士山に関することを学び、触れ、親しむことで新しい発見をし、その素晴らしさを再認識することを目的とした事業です。富士山豆博士事業に取り組んだ児童・生徒を富士山豆博士として認定します。

Q「富士山豆博士って今までで何人いるの？」

A今年度を含め、これまでに7、185人の富士山豆博士が誕生しています。

Q「富士山基金ってなに？」

◎6年生78人が「富士山豆博士になるろう」をテーマに学習スタート

【富士山学習】「富士山の自然に接し、興味・学習意欲を高める」

「静岡県富士山世界遺産センター」「富士山本宮浅間大社」「白糸の滝」を見学し、富士山の歴史や噴火活動周囲の自然環境などについて映像などを通して学習しました。富士宮市観光協会のボランティアガイドに案内をしていただき、富士山の地下水の恵みの様子を見学しました。



【調べ学習・発表会】「興味から掘り下げる。個々にテーマを設定し、調べて発表」

テーマに沿って調べて分かったことや感想をまとめ、発表会で披露しました。

【富士山の成り立ち】

三大噴火による富士山の変化を調べ、その変化や成長に驚きを感じました。

A富士山の雄大な自然を守り、より豊かで美しい富士山を後世に伝えることを目的にいただいた基金です。この目的のためにのみ使うことができ富士山豆博士事業などに活用しています。市内公共施設の一部に富士山の形をした募金箱を設置しています。環境課で直接寄付することも可能です。

## 富士山豆博士の取り組み紹介

【展示場所・展示期間】

- 富士山樹空の森 2Fギャラリー  
日時／3月15日(金)午前11時まで
- 市民交流センター「ふじざくら」1階ロビー  
日時／3月15日(金)午後2時～29日(金)  
※施設の都合上、展示場所や期間が変更になる可能性もあります。

## 神山小学校

【噴火の仕組み】

噴火原因としてマグマの体積変化やプレートとの動きがあることを調べ、地震の影響がとて大きいことを学びました。

【噴火の被害】

宝永大噴火における火山灰の影響や被害の大きさを調べたところ、健康被害まで出たことを知り、日頃の対策の必要性を考えました。

【富士山周辺の自然】

標高別に生息する動植物や絶滅危惧種を調べ、厳しい環境で生き残るすべからず環境を守る大切さを感じました。

【富士山信仰】

江戸時代から続く「富士講」について調べ、安全祈願としての富士山信仰の必要性を感じました。

【富士山に関わる芸術】

富嶽三十六景など富士山にまつわる浮世絵を調べ、富士山を尊敬しこれからも守っていくという意識を高めました。



## 富士岡小学校

◎6年生97人が「富士山のギモン」を学習課題に

【総合的な学習】「富士山豆博士に向けて」

今、自分が知っていることに加え「富士山はいつ噴火したのか」「世界遺産に登録後どんなことが変わったのか」など自分が調べたいことを学級ごと出し合い、課題を作りました。

【調べ学習】「国立科学博物館地学研究部鉱物科学研究グループ長 佐野貴司氏講演」

全員が知りたいと思った「富士山はどのようにしてできたのか」「どのような組成でできているのか」について、富士宮市出身の佐野先生に講演をしていただき、火山の働き方や、富士山が有史以来噴火を繰り返し、私たちの生活に影響を与えていることを教えていただきました。



【富士山教室】「富士山に関わる場所を見学」  
須走の「東口本宮富士浅間神社」

## 御殿場口で富士山自然観察と外来植物駆除活動を実施

富士山の自然環境を守るために活動しているNPO法人富士山の森を守るホシガラスの会は、2015年から2017年の3年間にわたり、市と協働で御殿場口の自然環境と侵入植物の調査を行い、その成果を冊子にまとめ市民、関係団体、学校などに配布し、ホームページでも公開しました。

今年度、御殿場口の自然観察ガイドブック「御殿場口の自然観察」を新たに作成し、御殿場・小山ボーイスカウトとともにガイドブックと



で富士山の歴史について調べた後、須走口五合目から市内の様子と山中湖・河口湖を見ました。実際に富士山に登ることで、登山をする人の気持ちに触れることができました。山梨県の「富士山世界遺産センター」も見学し、ワークシートをもとに、江戸時代の「富士講」や、標高700m以上に生息する鳥や動植物の様子を学びました。また、社会科学の授業で江戸時代の浮世絵には富士山の絵が多く描かれたことを知り、人々の生活の中に富士山があることも学びました。



【学習のまとめと発表】

体験を通して学んだことを、それぞれの課題に沿って新聞や本を作成し、まとめました。学級ごとに発表会を行い、学んだ成果を一つの冊子にまとめ、来年度富士山について学ぶ新6年生への資料とする予定です。

ルーペを使った自然観察と外来・侵入植物の駆除活動を行いました。近年、御殿場口には元々存在していなかった植物が増えています。これまでに確認された侵入植物は外来種を含め120種にもなります。今回のこの事業により、御殿場口の自然環境は富士山全体の中でもとても貴重であることを子どもたちも感じ取ってくれたと思います。富士山の自然が守られ、次の世代に引き継がれていくことを願っています。

